

英語科学習指導案

日時 平成26年5月30日（金） 2校時
学年 2年3組 男子20名 女子20名 計40名
指導者 池本源二郎

1 単元名 NEW HORIZON English Course 2 Unit 2 A Trip to New Zealand

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、ゴールデンウィークにニュージーランド旅行を計画していた一郎が、実際にそこへ行き、ニュージーランドならではの観光地や動物を見物するという内容である。具体的には、生徒の一郎とさくら、ALTのブラウン先生によるゴールデンウィークの予定についての対話、入国審査での一郎と係員の対話、一郎によるエグモント山についての紹介、キーウイの生態やそれを取り巻く問題についての説明で構成されている。言語材料としては、[be going to + 動詞の原形]を用いた未来表現や[主語 + 動詞 + 間接目的語 + 直接目的語]、[主語 + 動詞 + 目的語 + 補語]の文構造に加え、「相づちをうつ」「説明する」「発表する」「依頼する」等の言語の働きをもった表現も扱われている。このような言語材料を用いて、生徒は身近な観光地や人・ものなどについて紹介したり対話したりすることが可能となる。よって、本単元は、自分が伝えたい鹿児島観光地や人・ものなどについて、友だちやALT、本校が交流している、台北市立大直高級中学校の中学生などの外国人に英語で紹介したいという意欲をかき立てる題材であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、英語の学習には意欲的であり、ペアやグループでの複数の学習者による言語活動にも積極的に取り組んでいる。アンケートによれば、生徒は「話すこと」と「書くこと」に高い関心を示しており、特に、自分の気持ちが音声や文字を使って相手にうまく伝わったときに喜びを感じていることが窺える。また、英語を使って自分の考えや意見を流暢に伝えられる姿を目指して学習している生徒も少なくない。一方、多くの生徒が「聞くこと」や「話すこと」を、不安なこと、苦手なこととして挙げていた。その原因として、「聞くこと」については、自分のペースで聞き取れずに相手が話すスピードについていけないことで自信がもてない生徒が多く、「話すこと」においても、人前で話すことに自信をもてずにいる生徒が多くいることが分かった。したがって、相手の話している内容が理解できないときは、相手に質問をしたり、聞き返すなどしたりできるような工夫を行っていきたい。また、複数の学習者による協働の視点をもった言語活動を取り入れることで、分からないことを協力して補い合ったり、自信をもって自分の伝えたいことを話せたりするような工夫を行っていく必要がある。

学習形態については、グループ活動を好む生徒が圧倒的に多い。その中でも、自分の意見と他の意見を比較したり、よりよい意見を生み出したりするためには4～6人での活動が適切であると感

じている。また、これまでのグループでの言語活動の中では、メンバーの意見を参考にすることを心がけている生徒は多いが、リーダーシップを発揮している一部の生徒の意見をそのまま取り入れ、少数意見が反映されていなかったり、人間関係によっては、自信をもって自分の意見を伝えられなかったりする現状があることが分かった。また、リーダーや活動の進行をした経験をもつ生徒は、グループの意見を最終的に決定する際に、話し合いがうまくまとまらずに苦慮していたことも分かった。したがって、ペアやグループでの活動をより充実させるために、リーダーを中心としてメンバー全員の役割を明確にし、協力したり、責任をもって自分の役割を果たせたりするような協働の視点を取り入れた活動を行っていききたい。

(3) 指導観

本単元の題材の特性を生かし、生徒が、本校が交流している台北市立大直高級中学校の生徒に鹿児島観光地や人・もの・ことなどについて紹介するナレーションを作成することができるような授業を展開したい。具体的には、教科書の内容を中心に、small tasksを通して身近な観光地を友だちに紹介したり説明したりするための言語材料やナレーションの英文を書く際の基本的な文章構成を理解させる。また、各時においては、ペアで協力し、様々な情報を組み合わせながら、伝えたい内容を分かりやすく伝え合う活動に取り組ませる。そして、「ニック先生に観光地についてアドバイスしよう」という middle task において、ALTの家族の意向を捉えさせる言語活動を通して、相手を意識したコミュニケーションを行う経験を積ませたい。その際、協働的な言語活動を取り入れ、メンバー全員に明確な役割を与え、メンバー全員の意見が反映された内容にすることで、全員に充実感、達成感を味わわせたい。その後、それまでの経験を生かし、「台湾の中学生に鹿児島観光地を紹介しよう」という large task にスムーズに取り組めるようにさせたい。

このような指導を通して、互いに認め合ったり協力したりしながら責任感をもって活動できるような協働的な言語活動を授業の中で取り入れることで、グループ全員でよりよい考えや意見を創り出すことにつながり、国際的な視野をもち、円滑にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成できると考える。

【アンケート結果】 (アンケート対象者：2年3組 男子20名 女子20名 計40名)

1 次の英語の活動で最も興味・関心が高いことを一つ選び、その理由も書きなさい。	
ア 話すこと.....	57.5%
(理由：自分の伝えたいことが相手に伝わったときが一番うれしいから、外国の人みたいに流暢に話せることがあこがれだから)	
イ 書くこと.....	25.0%
(理由：習った文法や単語を使って台湾の中学生に手紙を書いてみたいから、正しい英文を書けると自信がもてるから)	
ウ 読むこと.....	15.0%
(理由：英字新聞を読んでいる人を見るとかっこいいから、台湾の中学生との交流を手紙やメールでしてみたいから)	
エ 聞くこと.....	7.5%
(理由：相手が話していることが分かったらうれしいから)	
2 次の英語の活動で最も不安なこと、苦手なことを一つ選び、その理由も書きなさい。	
ア 聞くこと.....	47.5%
(理由：実際は何回も聞くことができないから、相手のペースに合わせないといけないから、自信がもてないから)	
イ 話すこと.....	25.0%
(理由：人前で表現することに自信がもてなくて恥ずかしいから、自分の考えたことが短い時間で英語にできないから)	
ウ 書くこと.....	20.0%
(理由：語順に自信がないから、綴りを覚えるのが苦手だから)	
エ 読むこと.....	7.5%
(理由：自分のペースで進められるから)	

3 授業中の学習形態について、どんな学習形態が好きですか。理由も書いてください。		
ア グループ（4人～6人）	62.5%	理由 いろいろな人と意見を共有できて意見がまとまりやすいから、自分では分からないことを質問できるから
イ ペア	20.0%	理由 集中して活動でき、ペアのほうが理解しやすいから
ウ 個人（一斉）	10.0%	理由 一人でじっくり考えることができるから、人数が多いと意見がまとまらなくなることがあるから
エ グループ（8人～10人）	7.5%	理由 たくさんの意見を取り入れられるから、英語で劇をすることが好きだから
4 これまでの授業でグループ活動をしている際のあなたの様子はどうか。一つ選んで理由も書いてください。		
ア 他の生徒が何を言いたいのかを、耳を傾けて参考にしようとしている。	50.0%	理由 他の人の意見の中には自分が考えつかなかったことがたくさんあるから、自分の意見に自信がないから
イ リーダーシップをとる生徒に頼って、自分の意見が言えないことが多い。	27.5%	理由 自分の意見に自信をもてないから、人の意見に流されやすいから
ウ 他の生徒が何を言いたいのかを、耳を傾けるよりも、自分の意見を積極的に言っていることが多い。	20.0%	理由 自分の意見もしっかり伝えないと比較ができないから、自分の意見をしっかりと伝えたいという気持ちが強かったから
エ 英語が得意な生徒の真似をすることが多い。	10.0%	理由 自分の言った英語が正しいかどうか不安だから、自分ではよく分からないから。
5 これまでのグループ（4人グループ）活動において、グループ内でたくさんの意見が出たときはどのようにしてグループの意見を決定していましたか。理由も書いてください。（複数選んでもかまいません）		
ア みんなの意見を少しずつ取り入れて、新たな意見を作る。	50.0%	理由 みんなの意見を取り入れることでよりよい意見がつけられるから、みんなで決めた意見の方がその後の活動がしやすいから
イ いちばん説得力のある意見をそのままグループの意見とする。	47.5%	理由 一番説得力のある意見だと全体にも説得力があるから
ウ グループのリーダーや司会をする人が決める。	37.5%	理由 最終手段としてグループのリーダーが意見を決めることが多かったから
エ 多数決で決める。	28.3%	理由 一番簡単に決められるから、合意点を見つけるのが難しいから
オ 他のグループに進み具合を聞いたり、意見を求めたりする。	20.0%	理由 考え方が一つに限定されずに内容が深まると思ったから、話し合いがうまく進まない時に他のグループに聞くことで新しい視点が得られるから
6 グループで活動するときに、やりにくいと感じたことがあれば、次の中から選んで、その理由も書いてください。（複数選んでもかまいません）		
ア 自分の意見に自信がもてずうまく主張できないことがある。	50.0%	理由 自分の英語力に自信がもてず、間違っていないか心配になるから、他の人の意見の方が自分の意見よりも説得力があると思ってしまうから、自分の意見が少数意見のときは賛成してくれる人がいるかどうか不安になったから
イ グループによっては、活動に集中せずに協力しない人がいる。	30.0%	理由 人任せになってしまう場面がみられたから、興味のある内容のときだけ積極的に活動している人がいたから
ウ リーダーに頼ってしまい、一人一人が自分の役割を自覚していない。	22.5%	理由 自分が何をすればよいか分かっていない人がいたから、意見は出すことはできるがなかなか一つにまとめられなかったから
エ リーダーになったときにメンバーに何を指示すればよいかよく分からず、うまく活動が進められないことがある。	22.5%	理由 どうすればみんなの意見を取り入れた内容にまとめられるか分からなかったから、他の人が勝手に話し合い活動を進めてしまうことがあったから

3 単元の計画

(1) タスク「台湾の中学生に鹿児島観光地を紹介しよう」

(2) large task で活用させたい主な言語材料

言語の働き	学年・単元	教科書での表現
発表する	2年 WU 2年 U2-RFC	Hello, everyone. I'm Okada Ichiro. I'm going to tell you about kiwis.
描写する	1年 U10-① 1年 U10-② 1年 U10-② 1年 U10-③ 1年 U10-③	The hills here are too steep. Wow, it's beautiful. But it's not golden. Look at the trees! They're very tall. Look at the lake! It's like a mirror.

	1年 WP3 1年 WP3 2年 WU 2年 U2-RFC	The Earth is so small. But London is a beautiful city. You can see me at the zoo. It looks like Mt. Fuji, but it's not. It's Mt. Egmont.
説明する	1年 U7-② 1年 U7-③ 1年 U10-② 1年 U10-② 2年 WU 2年 WU 2年 U2-RFC 2年 U2-RFC 2年 U2-RFC 2年 U2-RFC	We're in San Francisco. They're fifty minutes long. That's the Golden Gate Bridge. The name comes from the Golden Horn in Turkey. This is an ice hockey jersey. Ice hockey is a popular sport there. People call it Taranaki, too. "Taranaki" means "shining mountain peak" in Maori. It's about 2,500 meters high. They live only in New Zealand.

(3) large task における活用例 (身近な観光地の紹介)

Hello, everyone. I'm Ichiro. Now I'm going to tell you about a famous place in Kagoshima. Look at this picture. What is this? Can you guess it? It's sand bath. We call it *Sunamushi-onsen*. You like hot springs. We have many hot springs in Japan. But we can see *Sunamushi-onsen* only in Ibusuki. It's special. It's like a sand sleeping bag. You can enjoy it in Ibusuki. It's in the south of Kagoshima. Let's try sand bath together. Have a good time. Thank you.

(4) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 相づちや聞き返し、確認などをしながら積極的に相手の意向を理解しようとしている。 ② 間違いを恐れずに観光地紹介のナレーションを発表しようとしている。	① 自分の意見や気持ち、賛否やその理由などを、つなぎ言葉や既習事項を用いて適切に話すことができる。 ② 使用場面や相手の意向を捉え観光地紹介のナレーションを適切に書くことができる。	① まとまりのある英文の概要や要点を適切に読み取ることができる。 ② 相手に適切に応じることができるように、意向を適切に聞き取ることができる。	① [be going to + 動詞の原形] を用いた文の形や意味、用法を理解している。 ② [主語 + 動詞 + 間接目的語 + 直接目的語] を用いた文の形や意味、用法を理解している。 ③ [主語 + 動詞 + 目的語 + 補語] を用いた文の形や意味、用法を理解している。 ④ 文と文のつながりや段落の組み立て方などのまとまりのある英文を書くための文章構成について理解している。

(5) 指導と評価の計画

時間	○タスク ・ 学習活動	単元の評価規準	評価方法 (総括的評価)
1	○ [small task] 単元のあらましを理解しよう ・ オリエンテーションを通した Unit 2 のスキーマ形成 ・ large task の設定 ・ 鹿児島県の観光地を紹介するために必要な情報等の収集 ・ 英文を書く際の基本的な文章構成の理解		
2	○ [small task] 週末の予定について話そう ・ Starting Out の内容理解と音読練習, [be going to + 動詞の原形] を用いた未来表現の形、意味、用法の理解と表現練習 ・ 週末の予定を紹介する文の作成と発表	エ-①	後日ペーパーテスト

3	○ [small task] 空港でのスキットを作ろう ・ Dialog の内容理解と音読練習, [主語+動詞+間接目的語+直接目的語] や観光地紹介に必要な表現の形, 意味, 用法の理解と表現練習 ・ 空港でのスキットの作成と発表	ウー② エー②	ワークシート 後日ペーパーテスト
4	○ [small task] 日本の観光地紹介のナレーションを作ろう ・ Reading for Communication の内容理解と音読練習, [主語+動詞+直接目的語+補語] や観光地紹介に必要な表現の形, 意味, 用法の理解と表現練習 ・ 日本の観光地を紹介する文の作成	イー② ウー① エー③	後日ペーパーテスト ワークシート 後日ペーパーテスト
5	○ [small task] 日本の観光地を紹介しよう ・ Reading for Communication の内容理解と音読練習, 観光地紹介に必要な表現の形, 意味, 用法の理解と表現練習 ・ 日本の観光地紹介のナレーションの発表	イー①	観光地紹介の発表
6	○ [middle task] ニック先生に観光地についてアドバイスしよう ・ A L T の家族の要望について書かれた英文の内容理解	ウー① エー④	ワークシート 後日ペーパーテスト
▶ 7	○ [middle task] ニック先生に観光地についてアドバイスしよう ・ A L T に観光地をすすめる場面でのスキット作り, 発表練習 ・ 作成したスキットの発表	アー① イー①	活動の観察 スキットの発表
8	○ [large task] 台湾の中学生に鹿児島県の観光地を紹介しよう ・ ビデオ視聴による台湾の中学生の要望についての内容理解 ・ 台湾の中学生に向けた鹿児島県の観光地の紹介ナレーションの原稿作り	イー② ウー②	ワークシート ワークシート
9	○ [large task] 台湾の中学生に鹿児島県の観光地を紹介しよう ・ I C T を用いた台湾との交流 ・ 台湾の中学生に向けた鹿児島県の観光地の紹介ナレーションのビデオ撮影	アー② イー①	活動の観察 観光地紹介の発表

4 本時の計画

(1) 本時のタスク

「ニック先生に観光地についてアドバイスしよう」

(2) 指導の重点

「聞くこと」「話すこと」

(3) 本時の目標行動

導入時において, 前時までの内容の復習を行った後, 教師とのインタラクションを通してタスクを把握する。その後, エキスパートグループにおいて, A L T の家族に関する英文の内容を「要約」し, そこから読み取れる A L T の家族それぞれの意向を確認する。次に, ホームグループに戻り, それぞれが読み取った意向について意見交換を行う。そこで, 互いが主張したそれぞれの人物の意向を生かし, A L T の家族にすすめたい観光地について考える。さらに, その意向を基にして A L T の家族の言動をグループで考える。その際は, その言動の理由や根拠と共に考えをまとめる。その後, 作成したスキットをホームグループで練習を行った後, 全体に発表する。

(4) 本時の指導目標

- ア 相づちや聞き返し、確認などをしながら積極的に相手の意向を理解しようとする態度を育む。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- イ A L Tの家族の意向や自分の考えや意見を、つなぎ言葉や既習事項を用いてグループに適切に話すことができるようにさせる。
【外国語表現の能力】
- ウ A L Tの家族の意向を適切に理解することができるようにさせる。
【外国語理解の能力】
- エ 対話文を作成するために必要な接続詞や文と文のつながりなどについて理解させる。
【言語や文化に関する知識・理解】

(5) 授業設計上の工夫

ア 協働的な言語活動を充実させるための工夫

(ア) ジグソー学習（教科論6-(1)-ア-(ア)参照）

ジグソー学習を取り入れることで、生徒一人一人が活動に対する自らの役割と責任を自覚できるようにする。その上で、生徒に互いの知識・技能や経験を基に、各グループで協働的に関わらせ、よりよいアイデアを練り上げることができるようにする。前時では、ホームグループで決めた役割を基に、A L Tの家族の意向についての英文をエキスパートグループで読み、自分たちのグループで主張すべきポイントを議論し、共通理解を図る。本時では、その確認をしたあと、ホームグループでA L Tの家族一人一人の意向を伝え合う。その後、コンセンサスサークルを活用しながら、A L Tの家族の意向に沿った観光地を決定するために議論をさせる。そして、A L Tの家族の意向が反映されたよりよいスキットの内容となるよう考えをまとめることができるようにさせる。

このような工夫を通し、生徒同士がそれぞれ身に付けた知識・経験等を互いに活用しながら、互いの考えをよりよく理解したり、表現したりすることができるようになれば、円滑にコミュニケーションを図るために必要な表現力・理解力を育成できると考えた。

イ 知的コミュニケーションを活性化させるための工夫

(ア) 「相手意識」を高めるための課題文作成の工夫（教科論6-(1)-イ-(ア)参照）

前時から本時の中で生徒に読ませる課題文は、A L Tの家族である4人のそれぞれの旅行に対する要望について書かれており、その背景などを基に試行錯誤できるように作成する。また、4種類ある課題文の中から指定されたものを別々の生徒に読ませることで、インフォメーションギャップが生まれ、試行錯誤する機会が増える。そのことにより、生徒はその人物の主張や意向について意識しながら、スキット作成に臨むことができるようにする。

このような工夫を通し、まとまりのある文章を通して、そこに書かれた内容や人物についてよりよく理解し、その内容を基に自分たちの考えをよりよく相手に伝えることができるようになれば、円滑にコミュニケーションを図るために必要な表現力・理解力を育成できると考えた。

(イ) 「要約」のための言語活動の工夫（教科論6-(1)-イ-(イ)参照）

相手を意識したコミュニケーションを行うためには、生徒自身やコミュニケーションの対象

となる相手も持っている知識や情報等を再構成し、適切に理解する必要がある。そこで本時では、前時までの本文の内容理解を確認する際に、教師は生徒とのインタラクションを通して引き出されたキーワードを構造化し、その内容を基にペアで協力しながら復元させ合う活動を取り入れる。この経験の積み重ねにより、グループのメンバー同士での知的コミュニケーションの中で、多様な意見に耳を傾けながら、重要と思われる部分を取捨選択したり、自分の知識・技能や経験等を基に例えたり、言い換えたりして分かりやすく表現することができるようになると考えた。

このような工夫を通し、ペアやグループなどの複数の学習者間によるそれぞれの知識・技能や経験を互いに活用させながら、それらを再構成し、自分たちの考えを相手によりよく伝えることで、「相手意識」が高まり、知的コミュニケーションが活性化され、円滑にコミュニケーションを図るために必要な表現力・理解力を育成できると考えた。

(6) 本時の実際 (7/9)

区分	教授=学習過程	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆評価 □補説(研究との関連)
導入		10'	1 英語で挨拶する。 2 前時までの復習を行った後、教師との英語でのやり取りを通して、本時の活動内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 英語学習の雰囲気を作る。 前時の復習を通して、生徒から引き出したキーワードを再構成させながら、ペアでニュージーランドについての説明をさせる。 (教科論6-(1)-イー(1))
		35'	3 本時のタスクを把握する。 4 英文の内容をエキスパートグループで確認し、それぞれの人物の主張すべきポイントを確認する。 (1) グループで読んだ英文の内容の確認をする。 (2) ALTの家族の意向を確認する。 5 英文の内容から、ALTの家族の意向について教師の質問に答える。 6 ホームグループで、ALTの家族の人柄について考え、スキットを作成する。 (1) メンバーの考えを基に話し合う。 (2) 考えを一つにまとめる。 (3) スキットを作成する。 7 スキットを発表する。 (1) グループ同士でコンセンササークルを活用して自分たちのグループの考えを伝えたいように発表する。 (2) スキットがよりよくなるようにアドバイスをもらう。 (3) 全体に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ALTの家族の意向を理解することによりよいコミュニケーションを図りたいという意欲をもたせた上で、本時のタスクを提示する その後のホームグループでの活動に自信を持って行えるよう、全員に責任感を感じさせながら確認させる。 (教科論6-(1)-イー(7)) 各グループを机間指導しながら英文の内容を確認する。 ◆ 教師の質問に答えることができたか。 □ グループ内で内容を確認させたり、他のグループの考えを参考にさせたりして、再度質問に答えさせる。 全員が責任をもってALTの家族の意向を伝えているか、各グループの机間指導を通して確認する。 考えを一つにまとめる際には、生徒にコンセンササークルを活用させ、リーダーを中心に話し合いを行わせ、協働的に活動に取り組ませる。 (教科論6-(1)-アア(7)) ALTの家族の言動に対し、各グループで理解した内容を基に、その理由を明確にさせる。 ◆ 英文を読んで理解した内容やグループで話し合った内容が生かされているか。 □ スキット上でのALTの家族の言動の理由を確認させる。
終末		5'	8 本時の学習内容を振り返る。 9 今後の活動の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を踏まえて、large taskでおすすめの観光地について台湾の中学生の意向を踏まえながらまとめることができるように見通しをもたせる。